

『ドイツ語』

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前文

共通テストの追試験が実施された。本試験と同様に、ドイツ語学習をめぐる状況は学校によってさまざまであり平均的なドイツ語学習者を想定しづらくはあるが、ドイツ語を「高等学校で3年程度継続して学んできた」受験者と仮定し、評価を行っていききたい。

追試験の受験者は、本試験に一度目を通し、出題傾向を把握していると考えられる。そのため、入試の公平性を保つためには、追試験は全般を通じて本試験より難度がやや高いことが妥当だと考える。

なお、評価に当たっては、報告書（本試験）15 ページに記載の8項目の観点により、総合的に検討を行った。

2 内容・範囲

本試験と同様に、昨年度の変化を踏襲した構成であった。一昨年度まで第1問にあった発音・アクセントに関する知識を問う出題が本試験同様にない。特定の場面や状況に応じた会話や長文など、本試験と同様に、受験者には今まで以上に幅広く学び、正確な知識が求められる出題である。

第1問 使用語彙は本試験よりも一見難しそうに見えるが、選択肢の中から選ぶ時に迷う要素が本試験より少ない。設問に取り組むには、それぞれの解答番号に入る品詞を見極め、①～⑨の選択肢の中から適切な変化をしているものを選ぶ。総合的な出題に見えるが、前後関係が活用されることが少なく、文法の知識が問われている。

問1 昨年度と違い、「選択肢は2回以上使用されることはない。」と制限が加えられた。各解答は、① liegen とともに用いる前置詞、② brauchen とともに用いる前置詞、③ es + gibt の es、④ 前文 zwar と aber の相関関係を表す aber、⑤ 形容詞の名詞化に伴ってよく使われる etwas、⑥ 受動態を表す助動詞 werden の人称変化、⑦ 人3格 + klar + werden の werden を本動詞として用いた場合の人称変化についての出題。本試験のような時制を問う出題はない。どの品詞を入れるかがわかれば迷う要素は少ない。

問2 本試験と同様に文脈に関係なく（ア）定冠詞中性4格、（イ）複数形1格の関係代名詞、（ウ）複数形3格の語尾、（エ）定冠詞類複数の4格とそれぞれ名詞の性がわかれば解答可能である。（ウ）で扱われる複数形が Bücher なので本試験より難度が低い。

第2問 本試験と同様の出題形式であり、昨年度と同様に出題は三つ。与えられた語を空所に当てはめ、文を完成させる出題。不要な選択肢が一つあり、文法の知識を問う出題となっている。

問1 ⑫ 再帰動詞 sich + lassen を使った受動的表現、⑬ には否定の nicht が入る。⑮ kann は主語が das Wetter なので入らない。日本語の訳に惑わされてはいけない。

問2 als ob ... の⑭ 従属接続詞 als の位置、⑮ は従属接続詞に導かれる副文の定動詞の位置を問う基本的な出題。

問3 ⑯ に分離動詞 aufpassen の命令形の基礎動詞、⑰ には不定詞句の不定詞を入れる。aufpassen はやや難。einsteigen はこの文では使うことのできない分離動詞。

第3問 一連の比較的長い会話等を読み、設問に答える。本試験と同じく説明文が日本語になっている。加えて、本試験とは違い場面の展開が少ないので読み取りやすい印象を受けた。また図を読み込むことで新たな情報を読み取らなくていいため対話に集中しやすい。使用語彙もそ

ここまで難しくはなく、量も少なく問3まで見開き2ページに収まっており、ページをめくる必要がなく本試験より解きやすい。

問1 18以降の対話から、買い物に行く予定だったことを聞いた Leo が知らないと答えたあとで、動物の好き嫌い、見る見ない等の話が展開されているので、これからすることを聞く②を選択することができる。

問2 他の選択肢と比較して正答①を選ぶことは難しくはないが、文法を中心に学んできた場合 nicht schlecht と「toll」が同じ意味にとれるか。

問3 下線部⑱以降の Tina のセリフから判断をする。会話の時点である駅から1駅あり、湖まで徒歩でいける距離だとわかるので、④を選択できる。

問4 下線部⑳「ehrlich」と同じ意味で使われる Wahrheit がある②を選択する。

問5 ドイツ語の場面説明が書かれた対話の最後に Tina が「zuerst eine Pause machen」と尋ねたあとに、カフェを見て Leo がアイスのお話をし、Melanie が「Gute Idee」と言っているため、この対話の後にカフェで休憩してから別の湖へ行くことは容易に読み取れる。

問6 絵以降の対話を読み話題にならなかったものを選ぶ。絵2, 3, 7について明確に述べているので正答④の組み合わせを選ぶことができる。「graben」はやや難の単語であるかもしれないが、その後ろに植物がよく育たないと別の言い方で補足しているため配慮を感じた。

問7 選択肢はドイツ語だが、ここまでの内容理解ができていればそこまで難しくはなく、特に正答以外の選択肢については本文内容とは違う部分が比較的わかりやすい。正答となる①に lassen, ④に auf 4格+verzichten が本試験と同様に設問で使われている。

第4問 本試験同様に、インタビューを読み、内容をメモに置き換え、更に、同じテーマで行う発表用原稿を完成させる出題。テーマは日本語とドイツ語で「文化学 (Kulturwissenschaften)」と併記されており、テーマ理解の一助となっている。受験者にとって必ずしも身近とは言えないが、具体例が書かれていて、難しくなりすぎないように工夫がされている。本試験のテーマ「金継ぎ」より事前の知識の有無が本文理解に与える影響は少ないように感じる。動画視聴やAIなどが場面設定に用いられている。

問1 (ア)には、具体例ではなく研究テーマを入れる。(イ)には Student C の質問に対する答えに「Kulturwissenschaften」の「andere Besonderheiten」が述べられており、本文で用いられている語と選択肢の表現が分かれば、正答を見つけ出すことは難しくはない。

問2 メモの「Kann man über Kebab forschen?」の問いの答えを探す。Lutjeharms 博士の二つ目のセリフから判断をする。③Einfluss auf das lokale Essen と本文中の「Einfluss auf die deutsche Esskultur」が対応する。

問3 14 ページ一番下の Lutjeharms 博士のセリフ二つの発言から意味をとる。Phänomen は英語からの類推が可能かもしれないが、やや難の語である。

問4 会話文全体から適切なものを日本語の選択肢から二つ選ぶ出題。日本語で書かれていること、正答でない選択肢には明らかに明言されていない部分があるので、本文の理解の一助となる。正答④のキャリアという語は多義性があるので受け取り方に差が生じるかもしれない。

問5 本文内容の要約を通じて理解を問う出題である。31には27の部分と同じ場所、32にはメモ中の「neues Wissen」、33には Lutjeharms 博士の最後のセリフから判断する。33に関して言うと、会話文とメモを読んだだけでは正答には至らず、本文中ではなく設問文に「文化学を学びたいと思うようになり」と書かれている日本語から類推することになってしまい、出題としてはふさわしくないのではないかと感じる。

第5問 比較的長い文と図の情報とを合わせて設問に答える。昨年度と違い、本試験の出題数と設問数と同じである。「ヨーロッパの家族形態の今昔」という社会的な話題ではあるが、日本でも最近少子化や婚姻数の減少など取り上げられるテーマであり想像しやすい。本試験と違い、二つの資料は本文を視覚化したものであり、本文理解の一助となる。

問1 ヨーロッパの以前の考えについて選ぶ。本文の「erst」「dann」が、②の früher, nach と対応しており子供を授かることの過去と現在を表している。

問2 資料1を読み正答を二つ選ぶ。スウェーデンの変化があまりないこと、それ以外のEU圏の国では1998年と2021年の約20年間で大いに变化したことを読み取り、④unverändertと⑤In fast allen Ländern ~ stark gestiegen がそれを表していることがわかれば二つを選択できる。

問3 資料2から数字を読みとり、適切なドイツ語の設問に答える。本試験でも出題されたが、受験者には%と分数は言い換えられるようにしておいてほしい。資料は「Nicht eheliche Geburten」であること、設問にある各州の数値に着目できれば、多少時間はかかるかもしれないが、正答④を選ぶことができる。

問4 日本語で書かれた選択肢から適当なものを一つ選ぶ問題。注意深く本文を読み取れば、問題なく②を選択できる。

問5 本文から読み取ったことと選択肢を比べて判断する。本文第四段落を読むと①が正答であることが分かる。②③は本文第二段落、④は本文第三段落に当てはまらない記述がある。

問6 本文第一段落にある「Familientypen」と「Familienformen」がキーワードとなっていることがわかれば容易に正答③を選択できる。

第6問 「世代間のギャップについての議論」について書かれた比較的長いやや抽象的な文章からの出題。本試験よりテーマは難しいように感じるが、受験者にとっても「Z世代」に代表されるような世代をテーマにした話題は日本でも頻繁に取り上げられており、違和感なく読める。

問1 第一段落に書かれている各世代の特徴について読み取り、表に当てはめる。表には、(a) 本文にある「fleißig」、(b)本文の「Individualisten」と選択肢 individualistisch の言い換え、(c)本文「Flexibilität」と選択肢 flexibel の言い換え、(d)faul が入る。世代の特徴を丁寧に読み取れば難しくはない。

問2 下線部②以下を読み、二つ選ぶ出題。②は本文では逆のことが述べられているので注意が必要。テーマとなっている世代間のギャップではなく、年齢層による違いであることに注意が必要。

問3 第二段落後半にある下線部④の後の wie 以下に書かれているものを読み取り、消去法で解くことができる。②religiöse Orientierung、③sozialen Status、④Genderfragen 以外を選択する。

問4 下線部⑤の具体例を選択肢から選ぶ。良問。①pessimistisch ではない、②faul ではない、③verantwortlich では必ずしもない。

問5 正答③は、問3がわかれば選ぶことができる。正答③も⑤も第二段落後半を丁寧に読むことで選択できる。

問6 問3と問5で問われていることを振り返り、世代間の議論に必ずしも意味があるわけではないことを読み取れば正答できる。

3 分量・程度

本試験より使用語彙の難度はやや高いと感じるものの、使用語数が本試験よりも若干少なく、本

試験と異なり第3問以降に複数ページを複数回参照する必要がなく、本試験より取り組みやすい。

4 表現・形式

繰り返し述べるが、共通テスト『ドイツ語』にはリスニングの設定がなく、受験者にアクセントや母音の長短を身に着ける意識を持たせるためにも発音に関する出題をしてほしい。本試験と異なり、個人の経験に基づく知識によって問題の理解度に差がつく可能性は少ない。また、第1問は文脈を把握し理解度を測る出題とはなっておらず、実際にはかなり細かな文法と語彙の知識が今回も求められていた。昨年度この場で要望したグラフや表の利用法や種類の選択については、追試験では本文の内容を読み取る助けになっており、適切だと感じた。

5 まとめ（総括的な評価）

細かい点をいろいろ述べさせていただいたが、共通テスト『ドイツ語』の問題作成に対し、多くの時間と手間をかけてくださっている問題作成委員、大学入試センターの方々に感謝申し上げます。